

# 2025 年度情報処理技術遺産認定式

旭 寛治 | 歴史特別委員会 幹事

## 情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館の認定制度

現存する情報処理技術関連の貴重な史料に対して、その保存の努力を称えるとともに末永く後世に伝えることを目的として、情報処理学会歴史特別委員会によって設けられた制度。第1回の2008年度は国立科学博物館で、翌年からは全国大会の場で認定式を行い、情報処理技術遺産には認定証の盾を、また分散コンピュータ博物館には認定書とプレートを、それぞれ関係者に贈呈している<sup>1)~3)</sup>。

全国大会初日の3月6日の午後、大会優秀賞等の表彰式に続けて同じ枠の中で情報処理技術遺産の認定式を実施した。今年度は、分散コンピュータ博物館の認定はなかった。

### □ 情報処理技術遺産

今回認定された情報処理技術遺産は次の2件である。

- **FACOM9450 パーソナルコンピュータ**：「真にビジネスに役立つ」ことを狙って市場に投入されたパーソナルコンピュータ。マルチジョブ実行機能によりオフィス業務とホスト連携を同時に実行することができるなど、1台で多様な業務を支援。多くのサードパーティ製アプリケーションパッケージを活用することもでき、OA化の推進に寄与した。独自開発の16ビットCPUとRAS機能を備えた128キロバイトメモリを搭載。1982年、富士通製造。



FACOM9450 パーソナルコンピュータ

- **日立クリエイティブワークステーション 2050**：オフィスにおける「OAの中核」として開発されたワークステーション。32ビットプロセッサ「68020」を採用し、ビットマップディスプレイとマウスによるマンマシンインタフェースを備えた。メインフレーム（HITAC Mシリーズ）のオンライン端末「T-560/20」のデータストリームをそのまま扱うことができ、OA機能と基幹業務を1台で両立させた。1988年、日立製作所製造。

### □ 私の詩と真実

例年と同様に、認定式の前の時間帯に「私の詩と真実」のセッションを開催した。これはコンピュータパイオニアの大先輩やパイオニアリングな仕事をしていらっしゃる方々をお招きして、若いころの研究生活の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話いただくシンポジウムである。第70回大会から開催し



日立クリエイティブワークステーション 2050

ており、第18回目となる今回は、NTT 社会情報研究所フェローの岡本龍明氏と北海道大学大学院情報科学研究科教授の川村秀憲氏が講演された。

岡本氏は「現代暗号の歩みとともに」と題して、日本電信電話公社（現 NTT）の研究所で暗号理論の研究に取り組み始めた経験を中心に話をされた。現代暗号が始まったのは70年代の後半であるが、その後もまもなく標準的暗号理論が構築、確立されようとしていた時期に、岡本氏は暗号理論の研究を開始された。そして初めのころに、高速デジタル署名方式 ESIGN の発明という成功体験を得たことが、その後の研究人生に好影響を与えたと振り返られた。以降、安全性証明理論、ゼロ知識証明、楕円曲線暗号、量子公開鍵暗号等々、現代暗号理論発展の激流の中に身を置いて研究に従事してきたことは大変エキサイティングな経験であった由。終わりに、若い聴講者の方々にこの分野に進むことを推奨して講演を締めくくられた。



「私の詩と真実」講演者  
岡本龍明氏



「私の詩と真実」講演者  
川村秀憲氏



認定式の様子  
（上）FACOM9450  
パーソナルコンピュータを所有する  
富士通（株）  
高橋義雄氏  
（下）日立クリエイティブ  
ワークステーション  
2050 を所有する  
（株）日立製作所  
石田貴一氏  
（左）本会会長



川村氏は「人工知能と俳句～機械が知能を獲得するために～」と題して、北大の研究室でやってこられた「AI一茶くん」のプロジェクトについて話をされた。句会に参加して俳句を詠み、人が作った句を評価したり批評したり、人と対等に渡り合うAIが目標。2017年にスタートしてまもなく、NHKのテレビ番組で人間と対決した際は惨敗を喫したが、2025年には僅差ではあるものの人間に勝つところまで来たとのこと。これまでに3億句を作った。AIと人との俳句を通した相互作用が研究の狙い。芸道の成長プロセスである「守破離」はAIにおいても同じであり、さらなる発展を目指している由。本講演で使用されたスライドは、俳句の表示に適した縦長のページに縦書き。これは18年に渡る「私の詩と真実」で初めてのことである。

Webサイト「コンピュータ博物館<sup>☆1</sup>」やパンフレット「情報処理技術遺産<sup>☆2</sup>」（写真）に、認定された遺産や博物館の解説記事と写真が掲載されているので、ご覧いただきたい。

#### 参考文献

- 1) 和田英一：情報処理技術遺産および分散コンピュータ博物館認定式、情報処理、Vol.50, No.5, pp.369-374 (May 2009).
- 2) 旭 寛治：2023年度情報処理技術遺産認定式、情報処理、Vol.65, No.6, pp.322-323 (June 2024).
- 3) 旭 寛治：2024年度情報処理技術遺産認定式、情報処理、Vol.66, No.6, pp.278-279 (June 2025).

(2026年3月28日受付)

☆1 <https://museum.ipsj.or.jp/>

☆2 <https://museum.ipsj.or.jp/library/pamphlet.html> からダウンロード可能



情報処理技術遺産パンフレット



情報処理技術遺産認定証

旭 寛治（名誉会員）  
asahi@fw.ipsj.or.jp

（株）日立製作所基本ソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長、（株）日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999年本会理事、2005年副会長、歴史特別委員会幹事、コンピュータ博物館実行小委員会主査、本会フェロー。